

東北大学医学部保健学科

同窓会新聞

ウェアセレモニー

平成26年9月29日と10月1日、保健学科検査技術科学専攻と放射線技術科学専攻3年生のウェアセレモニーを行いました。ウェアセレモニーは、これから臨床実習に進む学生一人一人に対して、各専攻の担当教員から東北大学ロゴマークの入った真新しい白衣や実習義を授与される行事です。式当日は、大内憲明医学部長と塩飽仁保健学科長から激励の挨拶の後、各専攻の代表学生が力強く決意表明を行いました。

今回は、検査技術科学専攻と放射線技術科学専攻の代表学生さんに式の様子や感想を書いていただいたので、ご紹介します。

検査技術科学専攻3年

佐藤正康



2014年9月29日、検査科3年を代表してウェアセレモニーで決意表明をさせて頂きました。臨地実習が始まる前は今まで学んだ知識がどれだけ身につけているのか、病院で実習するということが漠然と不安がありました。代表のあいさつとして医学部長、保健学科長を始めそれ



までご指導して下さいました先生方に感謝の気持ちと同時に一番伝えたいことは常に学ぶ姿勢を持ち続け臨地実習の現場では、教室の中だけでは分からなかったことや忘れてしまったこともあるだろうと思っていまいたが、技師さんが教えてくれることを全て吸収しこれから半年の実習を有意義なものにしようと思えました。

発行人 進藤千代彦
発行所 東北大学医学部保健学科
仙台市青葉区星陵町2の1
編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会
編集委員 高根侑美、田口悠人、荒川悠真、小川彩

初日の感想はとても新鮮でした。最初の部門は血液検査でしたが改めて検体の流れを実感することができました。自動化機器の勉強は苦手でしたがその便利さがすごく印象に残り教科書をすぐ理解できるようになりました。技師さんの見ているポイントもたくさん教えてもらいました。



白血病(M3)を例えると、ファゴットセル、15番17番転座などの有名所見の他に、高率でDICを発症しやすいなどいろいろな角度からの疾患の見方を教えて頂きました。質問に答えられないことも多々ありましたがメモと復習を繰り返すうちに教科書に書いていたことの実感が湧いてすごく理解できたことは本当に驚きました。また、現役の技師さんの話を聞くことができたことも良かったですと思います。検体系部門では医師にデータを渡すのがメインで患者とは接しないが、患者に一番利益が出るように思っている仕事していると感じて本当にかっこいいなと思いました。

臨地実習も残りわずかとなりこれから一年間は卒業研究です。検査科は臨床、研究、企業などたくさんの方の進路がありますが全員にとってこの実習で得た内容は将来生きるものだと思います。私は将来臨床で働きたいので、今回お世話になった技師さんのようなになるためこれからも学ぶ姿勢を持ち続けたいと思います。



放射線技術科学専攻3年

本多明香里

私は、病院実習に先立って行われた、ウェアセレモニーで学生代表として決意表明をさせて頂きました。私達のために実習着を用意して頂き、大変身の引き締まる思いがしました。私達3年生は、昨年9月から1月までの約5か月間、週2日という非常に短い間でしたが、東北大学病院、宮城県立がんセンター、仙台医療センターへ実習に行かせて頂きました。東北大学生として、これらの病院で実習できることに感謝致します。学校では学ぶことのできない現場で、「見る」「知る」「働く」という



経験を通して少しでも成長したいと実習に臨みました。実習体験をする中で、知らなかった事、分からなかった事を恥ずかしいと思っていました。しかしある時、知らないのは当たり前で、決して恥ずかしいことではなく、分からないことは分からないと、はっきりと言うことが大切だと気づきました。さらに、どんなに小さな疑問でも積極的に質問しました。そんな私達に、技師さんだけではなく、医師や看護師の方も丁寧に答えて下さいました。やはり、教科書で学習するだけでは得られない貴重な体験が多くできました。また、技師さんが働く姿を見ることで患者さんとの接し方も学びました。より良い写真を撮ったり、検査をスムーズに行っ



行ったりするためには、患者さんの協力も必要になってくると思うので、しっかりとあいさつができ、コミュニケーションがとれるような技師になりたいと思いました。最後に、実習先として受け入れて下さった病院関係者の方、実習にご尽力して頂いた先生方、大変お世話になりました。ありがとうございます。4月から、また新しく病院実習が始まります。ご迷惑をおかけすることも多くあると思いますが精一杯頑張りますので宜しくお願いします。



オープンキャンパス

本年度7月30日・31日に東北大学オープンキャンパスが開催され、星陵キャンパスにも多くの高校生やその保護者が来場されました。オープンキャンパス当日の様子を保健学科実行委員長から伺ったので、ご紹介いたします。ご興味のある方は、来年度ぜひお越しください！

実行委員長

画像解析学分野 松本健希

東北大学医学部・医学系研究科のオープンキャンパスについて、放射線専攻のオープンキャンパス実行委員長の眼からお話しします。



東北大学医学部は、毎年7月末に東北大学医学部・医学系研究科オープンキャンパスを開催し、主として大学受験を目指す高校生を対象に、東北大学医学部・医学系研究科での教育・研究内容や、幅広く学生生活全般などを紹介しています。実際自分が入学した際の、東北大学医学部での生活に具体的なイメージを持ってもらうことや、東北大学医学部が

社会に対して果たす役割・意義などを体験を通じて理解してもらい、今後の進路選択のきっかけとしてもらうことが目標です。



今年の医学部への来場者は、7月30日、31日の2日間で5000名を越えました。実は、東北大学医学部のオープンキャンパス来場者の多さは全国的にも有名です。ここ数年、来場者数右肩上がりの傾向をみても、その注目度やその魅力は抜群だと聞いています。



我々のオープンキャンパスは、学生が主体となって企画・立案し、教員の協力を仰ぎながら運営します。あくまでも主体は学生、教員はその補助です。なので、実行委員は大学院生以下、現役の学部生を主とした学生ボランティアです。在学中の学生が来場者の対応を行うことから、大学生活について率直な話、時には裏話も交えて聞けることも、大きな魅力となっているのではないかと思います。反対に、在学生にとっても、自分たちが普段通う大学について紹介するため、改めて大学や医療について見つめなおす良い機会となり、自らの持つ社会的な使命や責任について再度自覚でき大変有意義です。



オープンキャンパスでは、各専攻毎にキャンパス内を学生が案内する「ツアー」と呼ばれる企画があります。放射線専攻のツアーでは、普段は許可がないと入れない放射線管理区域に入域することができたり、高校では見ることが触れることのないX線CTやMRIなど、大型画像診断機器に実際に触れ、その原理を学ぶことができました。学生が行う解説を聞きながら見学でき、より一層診療放射線技術に興味を持っていただけるよう構成しています。図書館で「解体新書」の実物を見ることがもできます。これは旧帝国大学故になせる大変貴重な経験であると思えます。



す。他には大学での講義を実際に受講できる「模擬講義」や、現在病院で勤務なされている先輩をお招きしたの「卒業生と語ろうコーナー」など、来場者が実際に自ら見て・触れて・体験することに重心を置いた企画を行っています。



我々のオープンキャンパスのもう一つの大きな特徴は、大学院生も参加していることです。つまり、研究を主体とする大学院がオープンキャンパスの企画に大きく関与することで、東北大学の真骨頂である「研究第一主義」なるアカデミックな学風を強く表現できるようにしています。このことはさらに、受験生が高校生の段階から、学部卒業後のキャリアパスも含め、幅広い選択肢の中からより深く、より具体的に自身の進路を見つめるための一助となっているのではと考えています。



新任先生のご紹介

今年度に入り、新たに2名の先生が本学科に就任されましたので、ご紹介させていただきます。新しい先生方のご活躍により、保健学科がより一層活気づくことを願っています。

老年・在宅看護学分野 教授 尾崎章子



このたび平成27年1月1日付で保健学専攻老年・在宅看護学分野に着任いたしました。歴史と伝統を継承しながら、時代を先取りし、要請に応じてこられた東北大学に奉職することとなり、大変な重責を感じております。

超高齢社会を迎えた日本は、2025年までに団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に達し(「2025年問題」)、2040年には多死社会が到来すると予測されています(「2040年問題」)。日本の人口は急速に減少し、行政サービス機能を失う自治体が発生し、人口減少地域での犯罪や貧困が顕著になるといわれています。

老年・在宅ケアにおいても、急増する高齢者の医療・介護の問題に加え、高齢者が人生の最期を迎えられる場所が不足することが指摘されています。しかし、在宅医療や在宅看護を担う人材は依然不足しています。

都市部だけでなく、特にへき地(過疎地域、豪雪地帯、山村、離島等)を含む地域における医療や介護のシステムの構築、これらに携わる人材の確保は喫緊の課題となっています。

医療・看護は多くの困難な課題に直面していますが、このような中にもあっても、新しい着想を見出し、価値を創造して課題を克服していくことのできる人材を育て、輩出することが

社会が大学に対して期待していることであると考えます。現在の大学生は日本が2025年問題、2040年問題に直面している時に、現役世代として日本社会の中心にいる方達です。そのような人材を育成し、地域社会に貢献できる仕組みと環境を整えるとともに、地域の人々が地域の社会資源としての大学にどのような役割を求めているのか、地域の人々と問題を共有し、文化や価値を大切に、それぞれの力を活かす、課題解決に貢献したいと考えております。どうぞご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

内分泌応用医科学分野 助教 大場浩史



1月より前任の金子桐子助教の後任として、内分泌応用医科学分野の助教に着任いたしました大場浩史と申します。1期生として保健学科に入学、保健学専攻へと進学し、修士課程では鈴木貴教授に、博士課程で

は高橋和広教授に指導を受けて、乳癌を対象として内分泌学と病理学の側面から研究を進めてきました。大学院を修了してからは、医科学専攻分子生物学分野の助教に着任し、柴原茂樹教授のもとで教育と研究に携わってまいりました。そして、このたび教員として再び保健学科に戻ることに決めたことに、不思議な縁の巡り会わせを感じています。

着任後は、すぐに学生実習が始まり、教員として実習の準備や手技の指導をしていると、なつかしさを感ずると同時に、表に見えなかった先生方のご苦労に頭が下がる思いでした。先日、自宅を大掃除した際に発掘された学生時代のレポートを見ていると、先生方の指導のおかげできちんと成長している部分があったのだと、驚きと感謝を感じました。そして、これからは教員として、学生の皆様の成長をサポートしていくことの責任を改めて実感しています。着任のあいさつを書きながら、自身の学生生活を振り返ってみると、つらいと感じる時もありましたが、とても充実した時間でした。学生の皆様が保健学科・保健学専攻での学びと研究を終えて学位記を手にしたときに、充実した学生生活だったと思えるよう、精一杯協力していく所存です。まだまだ、至らない点があるとは思いますが、先生方、学生の皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

退任先生のご紹介

昨年をもちまして、本学科を退任された先生よりご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

内分泌応用医科学分野 助教 金子桐子



2014年12月末をもちまして保健学科検査技術専攻を退職いたしました。保健学科での在職期間は5年9ヶ月でしたが、医療短大、大学院とあわせると15年以上も星陵地区に在籍したことになります。検査技術専攻の先生方はもとより、他専攻の先生方、そして事務方の皆様にも大変お世話になりました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

在職期間で思い出深いのは、まず短期ではあるもののCollege de Franceへの派遣、研究をさせていただいたことです。研究者としてだけでなく一個人としても、人生が変わる経験でした。一方、学内での実習や講義、研究室で学生さんたちと一緒にできたこともまた、大切に貴重経験でした。保健学科に着任した当初に目指したことのひとつが、医療短大時代にいただいた恩の還元でした。ところが、振り返ってみれば還元どころか学生さんたちに教わることの多さったら！正直に申し上げて、どれほどの還元ができたのか皆目見当もつきません。それでも、もし10年後、20年後に卒業生のおひとりにでも、「そういえば大学で誰かこんなこと言っていたっけ」などとうつすら思い出していただければ、幸甚にて候。

さて、最後になりましたが、(ここを読んでおられる学生さんは少ないと思いますが)老婆心ながらひとつ。どうぞ東北大学の学生である利点を最大限に活用して、興味のあることには進路や専攻に関係なくどんどん首を突っ込んで、面白い匂いを嗅ぎ分けられるような経験を重ねていただきたいと願っています。大学の主役は、学生なのです。そして、いつだって私を含むそんな学生たちを受け止めてきた、東北大学保健学科がますますご発展していけますようお祈りしております。

イベントのご紹介

平成27年1月13日(火) 17時~18時半、医学部保健学科A棟大講義室にて「女子大学院生ネットワーク形成と次世代支援」東北大学サイエンス・エンジェル活動の紹介が開催されました。

このイベントは、医学系研究科男女共同参画推進委員会・歯学研究科男女共同参画WG委員会主催、星陵地区男女共同参画ネットワーク共催により行われたもので、サイエンス・エンジェル(以下、SA)をサポートされている東北大学男女共同参画推進センターの橋爪圭助手と医学系研究科および歯学研究科のSAにより日頃の活動を紹介していただきました。



当日のプログラムは以下の通りです。本イベントは感染分子病態解析学分野の石井恵子先生が企画され、当日は司会を務められました。

- 開会の挨拶
朝倉京子 教授
(医学系研究科男女共同参画推進委員会委員長、医学系研究科教授)

- SA活動の魅力
講師：橋爪圭 助手
(男女共同参画推進センター)
- 充実した大学院生活を！
SAのスヌメ
松本郁美 (医学系研究科大学院生)

- 留学生から見たSA活動
龍 剣蘭 (歯学研究科大学院生)
- わたしにとってのSA活動
活動して思ったこと
高根侑美 (医学系研究科大学院生)

- 閉会の挨拶
大隅典子 教授

(総長特別補佐(男女共同参画担当)、星陵地区男女共同参画ネットワーク代表、医学系研究科教授)



SAとは、次世代の研究者を目指す中高生に「女性研究者ってカッコいい!」「理系進学って楽しい!」という思いを伝える為に結集した、東北大学の自然科学系女子大学院生です。女性研究者のロールモデルとしてセミナーやイベントに参加し、科学の魅力・研究のおもしろさを伝えており、医学系研究所でSAとして活躍している人は年々増えており、今注目されています。

そこで、イベントの講師であり、本学科検査技術科学専攻の卒業生でもある松本郁美さんに、星陵地区でのSA説明会について簡単にご紹介いただきました。



私は現役SAとして、SAに応募した理由と今年度の活動内容、また来年度の抱負とSAの魅力についてお話させていただきました。私がSAに応募した一番の理由は高校生の力になりたいと思ったからです。自身、なかなか大学のイメージが湧かず、身近なロールモデルもおらず、進路にとっても悩みました。様々な学部に進学した大学生のお話を聞く機会があればなと思っていました。同僚のような悩みを持つ高校生の皆さんの参考になればと思います。出張セミナーに参加しました。出張セミナーでは自身の高校、大学での経験だけでなく、東北大学や医学部の紹介も行い、医学や医療について学ぶ魅力もお話ししました。高校生の皆さんからは、歳が近いので質問しやすくてよかった、医療従事者になるだけでなく研究の道もあることを知って興味を持ったなどの感想を頂くことができました。現役の学生であるSAから話を聞くことでより心に響き、進路選択の参考になるのではと考えております。

さらに、出張セミナーは高校生の皆さんだけでなくSA自身のためにもなる活動だと感じております。セミナーの講演資料を作る際には過去をふり返り、どのような思い、考えで今自分がこの場所にいるのか再確認することが出来ます。また、日々がんばっている高校生の皆さんと接することで元気をたくさんもらい、自身の大学院生活へのモチベーションアップに繋がっています。自身の経験や考え、夢を多くの人の前で語ることは、今後の学会発表や就職活動にも役立つと感じています。来年度は研究や就職活動と両立して、出張セミナーだけでなく科学イベントなどの様々なSA活動に積極的に参加していきたいと考えています。



大学院生活は研究が中心ですので、外に出ていく機会が中々ありません。その中でモチベーションを保ち続けるのは難しいこともあると思います。SAになって学外で活動をする事で良い刺激や活力をたくさん得ることが出来ます。また他の研究科に友人や先輩がで、多くのロールモデルと出会うことも出来ます。より充実した大学院生活を過ごすチャンスを与えてくれるSA活動をもっとたくさんの方に知っていただき、SAの輪が広がっていくことで、より魅力の溢れる東北大学になるのではないのでしょうか。

保健学科棟の北側にある「星陵体育館」が、この度改修工事を経て新しくなりました。



改修工事

この星陵体育館は昭和54年(1979年)に建てられ、鎌田茂さん(管理・平成15年4月)と齋藤裕彦さん(管理・平成21年8月)によって30年以上大切に使用されている建物です。今では医学部・歯学部、バスケットボール、バドミントン、バレー、ハンドボール、剣道、卓球の6つの部活が定期的に使用しています。昨年9月に改修工事が始まり、入口やトイレ、男女更衣室、シャワー室、バスケットボールのゴール、天井の電灯等が新しくなりました。11月には工事が終了し、新しくなった星陵体育館が再度使用できるようになりました。



私たちが思い切って運動できる場所が、こうして長い時間が流れても使われ続けられるのは、今まで管理し続けてくださったお二方や、使用後に必ず清掃・片付けをして、感謝の気持ちを忘れず、大切に扱っている方々によるものです。これからも、ずっと活気あふれる体育館であり続けることでしょう。



また、保健学科棟の南側にある「星陵会館」も昨年5月頃から改修工事を進め、来年度中には完成予定です。施設の老朽化及び震災時の緊急対策施設としての機能向上のために改修工事が行われていますが、この星陵会館に隣接する形で「星陵オーデイトリウム」が新しく造営されます。「星陵オーデイトリウム」は、宮城県の第二期宮城県地域医療再生計画にて策定された、地域医療研修センターのセミナールーム整備のために新営工事中で、1階にはエントランスホールを設け、ポスターセッションや食事、会議等ができるオープンスペースとし、2階にはセミナーや学会等に主に使用することを目的とした講堂を設置予定です。改修工事が終わった星陵会館には、従来通り東北大学生協(購買・食堂)のほか、カフェが新しく入ることになっています。続々と新しい施設が建つ星陵キャンパスに、ぜひ一度足を運んでみてください。



お知らせ

保健学科同窓会HPが3月25日付でリニューアルされます。ぜひ一度HPを覗いてみてください。

<http://www.hoken.alumni.med.tohoku.ac.jp/>

また、平成27年度保健学科同窓会総会を7月3日(金)17時半~19時、保健学科A棟大講義室にて行います。プログラムは例年同様二部構成とし、第二部では代表者による帰朝講演を予定していますので、皆さん奮ってご参加ください。

●保健学科同窓会では、卒業生の皆さんの情報を名簿として管理しています。結婚等による氏名変更や住所変更があった場合には、下記アドレスまでご連絡ください。
hoken@alumni.med.tohoku.ac.jp

編集後記

初めての編集作業でしたが、無事に新聞ができ上がり、ほっとしております。ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。

田口 悠人

皆様のご協力のおかげで無事編集作業を終えることができました。ありがとうございます。

小川 彩

私も初めての編集作業をさせてもらって、日常では見る側の立ち位置でしたがそれが作る側に回ることで、これから見てもらえる楽しさと完成した時の達成感や嬉しさを体感することができました。また、ご協力頂いた周りの方々に大変感謝しております。

荒川 悠真